

## 令和4年検討会報告書の実施状況

(「(別紙) 新プログラムのイメージ」 「【STEP2】 事業実施段階」 部分)

【STEP2】 事業実施段階	
(1) 関係構築	
報告書の記載	実施状況
<b>①目標設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業参加前に参加青年が各々の目標を設定</li> <li>・ オンライン交流の後、対面交流前に目標の再設定の機会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本体プログラム開始前に実施する事前研修において各々の目標を設定（日本参加青年）</li> </ul>
<b>②有識者による講義、グループディスカッション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGsなど世界共通の課題について学習</li> <li>・ 課題に対する国内外の多様な考え方を吸収するためのグループディスカッションを実施</li> <li>・ 外国政府や既参加青年等のリーダーとのオンライン上での面会を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コースディスカッション（以下「CD」という。）では、コース毎にSDGsなど世界共通の課題をテーマとして設定。参加青年はいずれかのコースに所属。テーマ毎に当該テーマに知見を有するファシリテーターが活動計画を立案するとともに、ディスカッションを指導。本体プログラム開始前に事前課題を設定（資料の読解、動画の視聴、レポートの提出、フィールドワークの実施等）</li> </ul>
<b>③文化交流・アクティビティ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の発見・再認識と関係性構築を図るため、オンライン空間での文化交流、ダンスや料理などのアクティビティ実施を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5は内閣府でオンライン交流の機会を設定。それ以外の年においても、参加者の情報は本体プログラム開始前から参加者間で共有されており、オンライン上での交流が本体プログラム開始前から自発的に行われている</li> </ul>
<b>④自由な交流機会の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別かつ自由な会話が可能となるメタバース空間等を活用して、参加青年間の自由な交流機会を確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5は内閣府でオンライン交流の機会を設定。それ以外の年においても、参加者の情報は本体プログラム開始前から参加者間で共</li> </ul>

	有されており, オンライン上での交流が本体プログラム開始前から自発的に行われている
<b>⑤地域実践活動プランニング</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の地域を題材に、相互理解の増進、実践力を醸成するためのチームビルディングをオンライン上で実施</li> <li>・5～6名程度のチームを構成し、特定の地域を題材に地域実践活動をプランニング</li> <li>・地域実践活動に参加してもらう既参加青年や世界各地で同様の活動をしている既参加青年にプランニングへの協力・参画を依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既参加青年を中心とする地域実践活動実行委員会を設置し、実行委員会が地域実践活動における活動計画を企画・運営。本体プログラム開始前の時点で、実行委員会とファシリテーターが連携して、CDでのディスカッションの内容と地域実践活動における活動内容を調整。地域実践活動の内容も踏まえつつ、ファシリテーターは事前課題を設定</li> </ul>
<b>(2) 交流と実践</b>	
<b>報告書の記載</b>	<b>実施状況</b>
<b>①共同生活</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船をベースキャンプとする日本参加青年・外国参加青年による共同生活（2～3週間程度）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症等のリスク低減、仕事・学業との両立を図りつつ、実践活動の日数確保の観点から、国内数か所を船で周遊</li> <li>・国内の社会人等向けに、国内寄港地からの途中参加を可能とする等の短期プログラム導入も検討</li> <li>・地域実践活動プランニングの継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度以降、本体プログラムは、船上での対面交流を中心として、国内航路を運航しつつ、国内の2～3カ所で寄港地活動を実施</li> </ul> <p>【R5年度】対面交流 29日（うち乗船から下船まで 25日）  地域訪問活動：京都（3日）、兵庫（3日）  地域実践活動：高知（8日）</p> <p>【R6年度】対面交流 29日（うち乗船から下船まで 25日）  地域訪問活動：静岡（2日）  地域実践活動：島根（5日）</p> <p>【R7年度】対面交流 27日（うち乗船から下船まで 22日）  地域訪問活動：沖縄（3日）  地域実践活動：愛知（5日）</p>
<b>②地域訪問活動</b>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを設定し、そのテーマに相応しい日本国内の地域数か所に寄港し、地方公共団体や地域の NPO、既参加青年等の協力・参加の下、日本の地域を紹介、体験、意見交換</li> <li>・既参加青年や地域の青年・住民を招いて交流を行うオープンシッププログラムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の魅力や日本の文化を体感するとともに、地元の青年との交流を図ることを目的に地域訪問活動を実施。既参加青年を中心とした実行委員会が訪問先の選定や企画・運営を担当し、地方公共団体、地元 NPO 等の協力のもと、活動を実施。寄港地においてオープンシップを開催し、地域の青年を含む地元関係者との交流を実施</li> </ul>
<p><b>③地域実践活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域 1 か所に寄港、一定期間（1 週間から 10 日程度）停泊し、現地に入り活動</li> <li>・地方公共団体の協力の下、地域の NPO、既参加青年と協力・連携して、プランニングした活動を実践</li> <li>・既参加青年や地域の青年・住民を招いて交流を行うオープンシッププログラムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既参加青年を中心とした実行委員会が訪問先の選定や地域実践活動の企画・運営を担当し、地方公共団体、地元 NPO 等の協力のもと、活動を実施。寄港地においてオープンシップを開催し、地域の青年を含む地元関係者との交流を実施</li> </ul>
<p><b>④表敬等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府や地域のリーダーへの表敬、意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣総理大臣への表敬や皇族の御引見を実施。寄港地では都道府県知事への表敬を行う他、寄港地活動を行う市町村の首長を船上レセプション、成果発表等に招待し、交流・意見交換等を実施</li> </ul>
<b>(3) 振り返り</b>	
<b>報告書の記載</b>	<b>実施状況</b>
<p><b>①ラップアップセッション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業終了後に、「将来設計書（STEP1）」や「目標設定（STEP2（1）」について、自己評価し、将来の社会像と自身の行動計画を作成</li> <li>・地域での実践活動等により得た課題について再度検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本体プログラム終了後の事後研修で振り返りを実施（日本参加青年）</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の検討につき、オンライン空間も活用して、青年間で共有・ディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域実践活動終了時点で振り返りを実施。本体プログラム終了時点でCDの総括として成果発表会（サマリーフォーラム）を実施し、CD毎の学びの内容を参加青年相互に発表</li> </ul>
<p>②事業報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業横断的な事業報告会で、既参加青年がまとめた事業成果を発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IYEOとも協力して事業報告会を実施（日本参加青年）</li> </ul>
<p>③フォローアップ交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業参加数年後に、リアル・バーチャルのハイブリッドによるフォローアップ交流を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業参加1年後及び3年後の者を対象に、参加者同士での活動報告及び先輩既参加青年との懇談を内容としたフォローアッププログラムを実施予定（R8より。日本参加青年）</li> </ul>